

こども教育会議 会議録(速記メモ)

日時	場所	出席	小松市長、松尾教育長、 大庭教育長職務代理者、教育委員(牟田、田中、松尾)、 古賀こども教育部長、野口こども教育部理事、スポーツ課(井手課長、 国スポ・全障スポ推進室(池田室長、鶴崎室長補佐、蒲地室長補 佐))、教育総務課(真崎課長)、学校教育課(福田課長)、松尾企画 部長、企画政策課(小柳課長、筒井係長、村山)
令和6年7月31日(水) 13:30~14:30	武雄市役所 4階 災害対策本部室		
1. 協議件名	第36回こども教育会議(国スポ・全障スポ開催と今後の教育現場への展開について)		

議事録	
内容	<p>1 開会(進行:松尾企画部長)</p> <p>2 議事(議事進行:小松市長)</p> <p>(1)国スポ・全障スポ開催と今後の教育現場への展開について</p> <p>①話題提供</p> <p>国スポ・全障スポ開催に向けて、現在実践している企画について説明を行う。</p> <p>②意見交換</p> <p><出席者の意見></p> <p>(松尾委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツを活用して、国スポ後においても子供から大人までたくさんの方がスポーツの楽しさを実感できる場をつくってほしい。 ・市内公民館でポッチャなどを購入されていると聞いている。地域のほか、小学校の学童や中学校の部活動などの教育現場につなげ、部活動の地域移行としても活用できないだろうか。 <p>(田中委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツは障がい者でも健常者でも誰でも年齢や体力を問わず、取り組むことができる。夏祭りでリズムダンスを踊る予定があるが、リズムダンスは自分のコンディションに応じて広い年代で気軽に楽しめる。 ・武雄市内で行われているサークル活動をリスト化し、ホームページなどで紹介することで普及につながるのではないかと。運動する子、しない子は二極化していると思うので活動の場を知り、参加する機会につながるのでは。 ・スポーツをするうえで、自分の身体のコンディションを知っておかないとケガにつながる。特に小学生は自己管理が難しいので、大人が無理させないように環境を整えることが大事。また、中学生以上になれば、コンディションに応じたメニューを自己決定できるようになるのが理想と考える。 ・武雄市はリーディング DX などの事業で自己決定する力を大事にしており、自己決定力は部活動などにおいても同様に大事である。専門家の知識や教育で、自己管理能力を向上させるように推進できれば。 ・ユースクリニックの活用について周知することで、身体の自己管理ができ、スポーツを楽しむことにつながる。 <p>(牟田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若楠国体の折に自らも観戦したが、身近に選手の姿を見たことでスポーツへの関心が一気に高まった。 ・ひぜんスタジアムやワンスポなど国スポ・全障スポの大会を契機に市内でもスポーツ施設の整備が進んだように思う。 ・少子化で新たな部活動・スポーツを学校現場に導入することは難しいと思うが、ニュースポーツをさわやかスポーツなどで気軽に親しめるような環境ができればレガシーとして残せるのではと思う。 ・スポーツが苦手な子でも楽しめるようになればよいと考える。 ・市でバスを運行し観戦に行っていただくこともよいが、各家庭で大会を観戦していただけるように更なる周知、啓発が必要では。実際に会場へ足を運び、観戦することで得られる感動があるし、親子で観戦したという思い出は一生残る。保護者を通じてスポーツの楽しみ方や効果を広げていく機会になれば。

(大庭教育長職務代理者)

- ・スポーツ協会が目指している「多様性、継続性、地域性」と今回の国スポ開催は通じるものがある。軽スポーツ、パラリンピックの競技種目は学校のカリキュラムにないかもしれないが、学校の授業や学童、スポーツ協会や地域の方との連携で、地域のスポーツとして根付いていくのではないかな。また、運動会の競技に採用することもできるのではないかな。
- ・競技性「鍛えるスポーツ」から「誰でもできる・楽しめるスポーツ『生涯スポーツ』」を推進していくのは今後必要と考える。
- ・中学校の部活動を地域移行する際、受益者負担としたときに、経済的な理由によりスポーツができなくなる子がスポーツ離れしてしまう問題が出てくる。指導者の面も含めて、大人や企業のバックアップ体制が課題となる。

(教育長)

- ・西川登町のチャレンジ・ザ・ゲームに参加した。子どもから高齢者まで幅広い世代でできる競技内容なので、小学校の育友会行事などに取り入れてみてはどうか。
- ・6月下旬に国スポのサポーター向け研修が実施された。研修の内容はおもてなしも含めきめ細かいものであり、素晴らしいものであった。サポーターが経験した内容を学校などで子どもたちに話してもらってはどうか。

〈市長の発言〉

- ・スポーツを頑張る子には、頑張る環境をつくるのが大切であるが、スポーツのハードルを下げてスポーツが楽しいと思えるような環境をつくることも大事である。
- ・できないことで苦手意識ができて、スポーツは楽しくないという気持ちになるという話を聞く。「できた」「楽しい」という気持ちをどのようにして作っていくか。
- ・障がい者に対する偏見というのは、障がいを持った方と会ったことがないというのも理由の1つと考える。障がい者スポーツを広げていくことで、障がい者自身のスポーツの機会をつくることはもちろん、接する機会が増えれば障がいに対する理解が深まり、障がい者との共生社会の実現につながるのではないかな。
- ・花スポのような緑を増やす取り組みは1人1人が社会参加できる取り組みであるので続けていけたらよいと考える。
- ・これまでの委員の発言は、
 - ①ニュースポーツの更なる普及、教育現場にとどまらず学童や地域に広げ、気軽にできる環境をつくる。
 - ②スポーツ環境の情報提供について検討する。
 - ③体調管理やスポーツのメニューを自分自身で決めて楽しむという考えは教育とスポーツは同じである。という内容だった。委員の意見を踏まえて気づきなどあれば伺いたい。

(大庭教育長職務代理者)

- ・順位を競うのは観戦する側の楽しみはあるが競技によっては、競技者にはつらいものもある。町の運動会などでは種目を見直して、競技性よりも多くの人を楽しむことができるような種目に見直すこともよいのでは。
- ・国は楽しむスポーツを前面に出しており、新しいスポーツへの転換期にきていると思う。SAGA2024はそのスタートといえる。新しいスポーツへ変化していく中で、障がいを持つ子やその家族、中高生が小学生と遊ぶ機会が増えると思うが、そういった機会は継続していくことができればと思う。

(田中委員)

- ・eスポーツへの取り組み予定はあるのか。不登校の子どもなどは、eスポーツがきっかけで人と交流するきっかけになる子もいるのでそういった場があれば。
⇒(スポーツ課)eスポーツについては先日イベントの中で実施したが、現時点で子供向けに取り組む予定はない。健康課では高齢者向けに実施しているため、今後連携して取り組んでいくことも考えたい。

(松尾委員)

・朝日町では、2年前くらいから朝日町民運動会から宵のまつりとして実施されている。祭り会場で e スポーツを実施され、高校生の協力もあったようだ。小学生から高齢者まで興味を持って楽しく取り組まれている様子であった。

・(市長)e スポーツはニュースポーツにあたるのか。

⇒(松尾委員)ニュースポーツにはあたらないのでは。

〈市長の発言〉

・各町の e スポーツ教室は現在、認知症予防や地域の人と顔を合わせてつながりをつくるイベントとして実施され、面白い取り組みであり、スポーツの多様性の1つとして考えていくのもありなのではないかと思う。

・(市長)e スポーツは外出しなくとも、世界各地とオンライン上でのつながりができる。地域の人ともeスポーツを通じてオンラインでのつながりがあつたほうがよいのか。

⇒(田中委員)対面せずともオンラインのみでつながっていればよいという意見もあると思う。しかし、対面でeスポーツを通じて交流することで対面での交流の楽しさを知ることにもつながるのではないかと考える。ただし、親や周りの大人が無理強いするべきではない。

(田中委員)

・高齢者がeスポーツを楽しんでいる場に中高生など子供が教える側として入ることで役に立ったという意識が芽生え、自己肯定感の向上にもつながるし、世代間交流にもなる。

(牟田委員)

・グラウンドゴルフは地区の小学生などにも楽しんでいただいているが、子どもたちが使えるサイズの道具がなかったため、大人用の道具をサイズ調整して使用した。

・e スポーツやニュースポーツがきっかけとなって、2世代、3世代で同じスポーツに親しむ機会が増えてほしい。更には、不登校などの子どもやあまり外出されない高齢者の地域での交流が生まれ、それによって生きがいを感じることができればよいと思う。スポーツ課はこういった地域の声を把握してほしい。

(市長)

・ニュースポーツについて、今後どういった取り組みができるか。提案などあれば。

(田中委員)

・花スポもスポーツの一つの形ということであれば、農業分野として体を動かすスポーツと捉え、農業などに展開するのはいかがか。校外での活動が難しいのであれば学校での菜園活動としての機会を増やしてはどうか。

(松尾委員)

・育ちあい講座に組み込むのはいかがか。

(大庭教育長職務代理者)

・育友会行事など親子で活動する行事や放課後児童クラブでボッチャやモルックなどの競技を導入しては。

〈市長の発言〉

・スポーツのハードルを下げて、スポーツそのものが楽しい、誰でも関わられるし、みても、やっても楽しいと思ってもらえるようにきっかけを作っていく必要がある。その手法の1つとして、ニュースポーツに可能性を感じている。

・スポーツは運動だけでなく、自己肯定感の向上、認知症予防、世代間交流などの手段として利用できる。今後、スポーツを活用する場面をどう広げていくかという発想が大事である。

・今回の意見を活かして、今後、教育委員会やスポーツ課においても国スポ後にもつながるような取り組みを考えていきたい。

3 閉会(進行:松尾企画部長)